

## 障害者福祉 Q&A

### (障害のある人へのエチケット)

- Q1 障害のある人へのエチケットを教えてください
- Q2 目の不自由な人に対してはどのようにしたら良いのですか
- Q3 耳の不自由な人に対して気をつけることは何ですか
- Q4 手足の不自由な人に対してはどのようにすれば良いのですか
- Q5 脳性マヒの人に対して気をつけることを教えてください

### (障害のある人へのエチケット)

#### Q1 障害のある人へのエチケットを教えてください

障害のある人へのお手伝いは人間として当然の行いです。特に意識することなく、ごく自然な気持ちでお手伝いをしたいものです。障害のあるなしにかかわらず、人間はみなお互いに助けられて生きているのです。

人間一人ひとりが千差万別であるように、障害のあるひとりひとりも全て違います。「障害者」とひとまとめに考えるのは混乱のもとです。ひとりひとりが別々の人格であることを認識することが、障害のある人に対するエチケットの基本です。

障害のある人のお手伝いをするときには、あたりまえのことですが、まず、声をかけることが大切です。黙っていきなり身体に触れたり、車椅子を押ししたりするのは、失礼でもあり、相手を驚かせたりすることになります。

障害のある人が困っているのを見かけたら、その人が何をして欲しいのかを聞くことが大切です。ひとりよがりには手をだすのは、親切ではなく、お節介になります。障害のある人自身も介助のされ方を工夫しています。

障害のある人を特別視したり、無能力扱いをしないことが障害のある人に対して最も理解ある態度です。同情にもとづく言動は控えめに、必要なきときには快くお手伝いしてください。

## Q2 目の不自由な人に対してはどのようにしたらよいのですか

挨拶するときは、見える人のほうから先に声をかけてください。次いで握手をしてください。それによって、相手はあなたの身長その他もろもろを察知して親近感をもちます。

目の不自由な人の中には、全盲と弱視の人がいて、お手伝いの必要はそれぞれに違います。何が必要かを率直に聞くことが大切です。

街角で白い杖の人が立ち止まって考え込んでいるのは、方角が分からなくなってしまったときに多い姿です。方角や場所を教えてあげるときは、左、右、前、後とか、何歩、何メートルの所と正確に言ってあげてください。

案内するときは、白い杖の反対側に立って腕を貸し、見えない人の半歩前を歩きます。白い杖は見えない人の眼ですから、それを持つ手をつかんだり、引いたり、押したりすることは厳禁です。

階段やエレベーターでは、昇るか降りるかをはっきりと説明することが大切です。

お茶や食事のとき、最初に並べられた食器などの位置と内容を小声ではっきりと説明してください。物の位置は、時計の針の位置で言うと分かりやすくなります。

人によっては手で触れて確認するお手伝いも必要です。なお、点訳や朗読奉仕は、たいへん喜ばれます。

## Q3 耳の不自由な人に対して気をつけることは何ですか。

耳の聞こえない人といっても、全く聞こえない人、聞こえにくい人などさまざまです。耳の不自由な人の中には、自分の言葉が耳で確認できないので、言葉が不自由な人もいます。耳の不自由な人、言葉の不自由な人とは、話そうという気持ちさえあれば通じあえます。まずあなたから心を開いて話しかけて下さい。

耳の不自由な人との会話には、口話(読話)、手話、指文字、筆談

などの方法があります。

口話は相手の口の動きを読み取ることで伝えあう方法です。口の動きがはっきり分かるように正面からはっきり話してください。

手話は、耳の不自由な人の間で自然に生まれ発達してきたものです。ほとんどの地方自治体で手話講習会が開かれていますので、あなたも手話を学んでください。

指文字も手話と併せて使われています。

筆談は、手のひらや紙に文字を書いて伝えあう方法です。耳の不自由な人に話しかけられた場合、気軽に筆談で応じてください。

道路を歩くとき、背後からの音が聞こえませんが、聞こえるあなたが、車道側を歩いてください。病院や銀行の窓口などで呼ばれても聞こえませんが、手招きなり、肩をたたくなりしてあげてください。後ろから呼ばれても聞こえませんが、面倒でもそばに行って肩をたたいて呼んでください。

駅や乗り物内の案内放送などが聞こえませんが、その時々に必要な行動や判断ができない場合があります。あなたから放送内容を伝えてください。それによって耳の不自由な人はずいぶん助かります。

耳の不自由な人も積極的に人との交流を望んでいます。しかし、今、何を話しているのか分からないために消極的になりがちです。話の内容を手話や筆談で伝えてください。

#### **Q4 手足の不自由な人に対してはどのようにすれば良いのですか**

車椅子の人が街で困っていたら、まず声をかけましょう。一人で手伝うのが無理だったら、通りがかりの人に協力を求めます。例えば、階段で車椅子の昇り降りを手伝うのには二、三人がかりで呼吸を合わせて静かに持ち上げます。昇りは前向き、降りは後ろ向きで車椅子の人が落ちないように気をつけます。

足の不自由な人には、松葉杖の人、義足(外から見えないこともある)の人など、いろいろな状態の人がいます。これらの人たちは、乗り物で大変困っています。シルバーシートでなくても席を譲りましょう。

雨の日は松葉杖の人が一番困る日です。傘はさせないし、足元はすべる危険があります。松葉杖の人にはぶつからないように、そして、隣に松葉杖の人がいたら守ってあげましょう。

松葉杖の人は階段や段差で困ることが多くあります。腕を貸せば昇れる人、それではかえって昇れない人などいろいろありますから、どうしたらよいか、良く聞いてお手伝いしてください。

手足の不自由な人を街で見かけても、すぐに手を貸す必要はないのです。困っているときや、援助を求められたときに、はじめて手を貸してあげてください。不自由な人たちは、人の手助けを心苦しく思うものです。それだけに、こまやかな心づかいが必要です。一緒に歩く工夫もしてみてください。

#### **Q5 脳性マヒの人に対して気をつけることを教えてください。**

脳性マヒの人といっても、障害の現れる型や部位によって10種類にもあがる状態があって、一律にはとらえられないことを理解することがまず必要です。

アセトーゼ型の脳性マヒの人は、言語障害に加えて、顔の表情や頸、手、足などの不随意筋のために、他人の感情を損なう動作をしがちです。このことを理解して接することが大切です。

脳性マヒの人に接する場合、例えば、視線が上から下を見下ろす形になると、威圧的になったりして、意思を適切に伝えられなくなることもなります。視線を相手と同じ高さにして、相手ととけこむような心を持って接することが大切です。

脳性マヒの人の話を聞く場合は、言葉のひとつひとつを噛みしめるように聞き分け、その意味を相手と同程度に理解すること、言葉が分からない場合は、筆談や介添え人を求めるのではなく、何度となく聞き返すことが大切です。

話の内容を理解できないときには、相手にメモを取ることを承諾してもらってからメモをとり、その意味を理解するようにします。相手の言葉がよく分からないまま、言葉の先取りをすることは相手を傷つける

ことになりかねないので極力避けるようにします。

この Q&A は、「障害者福祉とは何か」ミネルヴァ書房から転用しています。原典は「体の不自由な人の福祉」テクノエイド協会と記されていましたが、障害者へのエチケットとして追加や補足、訂正などがありましたら事務局にいけんをお寄せください。これをベースにして皆様の意見でより良いものにしていきたいと思っています。